

情報公開文書

2014年4月1日～2017年3月31日までの間に13階東病棟に入院された患者さんへ
課題名「危険予知トレーニング（KYT）導入後の変化～インシデントの発生要因の分析～」

2015年4月より、危険予知トレーニング（KYT）の取り組みを開始しました。13階東病棟では看護を提供する上で危険を予知し安全に実践できることを目的にKYTを念頭において、毎日看護業務に関するミーティング後に行動目標を立案し実践しています。

本研究の目的は、13階東病棟におけるインシデント（実際には事故につながらなかったが、可能性として、重大な事故になっていたかもしれない事態のことをさします）の実態とその要因を明らかにし、危険予知トレーニング（KYT）導入前後の変化を明らかにすることです。

危険予知トレーニング（KYT）とは、作業を行う前にミーティングなどで作業に潜む危険を短時間で話し合うことで危険に気づき、対策を決め行動目標を立案し実践する訓練です。医療現場でのKYTの目的は「危険を察知する感受性を鋭くし危険を回避するため問題解決能力を向上させることです。

本研究において13階東病棟における2014年4月1日から2017年3月31日までに入院された患者さんのヒヤリ・ハット事例「事例情報」報告書（インシデント内容を看護師が記載したものです）を使用します。発生前・月・曜日・時間帯・経験年数・事例の概要・影響度のデータを集計します。

データの抽出は、特定の個人を識別する情報は使用しません。得られたデータ及び情報は厳重に管理し、保管・処理を行います。本研究に関するご質問等ある場合は、下記の連絡先までご連絡下さい。

研究に関する連絡先

研究者：桑原 由依，嶋辺 彩，三村 浩美，大木 彩子

所属：川崎医科大学附属病院 13階東病棟

住所：〒701-0192 岡山県倉敷市松島 577

電話番号：(086)462-1111（病院代表）

13440（13階東病棟内線）

情報管理責任者：伊藤 由加（看護師）